

<日本経済の基調判断>

景気は、回復している。

企業収益は改善。
設備投資は増加。

個人消費は
緩やかに増加。

雇用情勢は、
厳しさが残るもの
の、改善に広がり
がみられる。

輸出、生産は
緩やかに増加。

(先行き)

- ・先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。
- ・一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

<政策の基本的態度>

政府は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005」に基づき、構造改革を加速・拡大する。1月20日、「平成18年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」及び「構造改革と経済財政の中期展望 - 2005年度改定」を閣議決定し、平成18年度予算政府案を国会に提出した。

政府は、日本銀行と一体となって、重点強化期間におけるデフレからの脱却を確実なものとするため、政策努力の更なる強化・拡充を図る。

今月の説明の主な内容

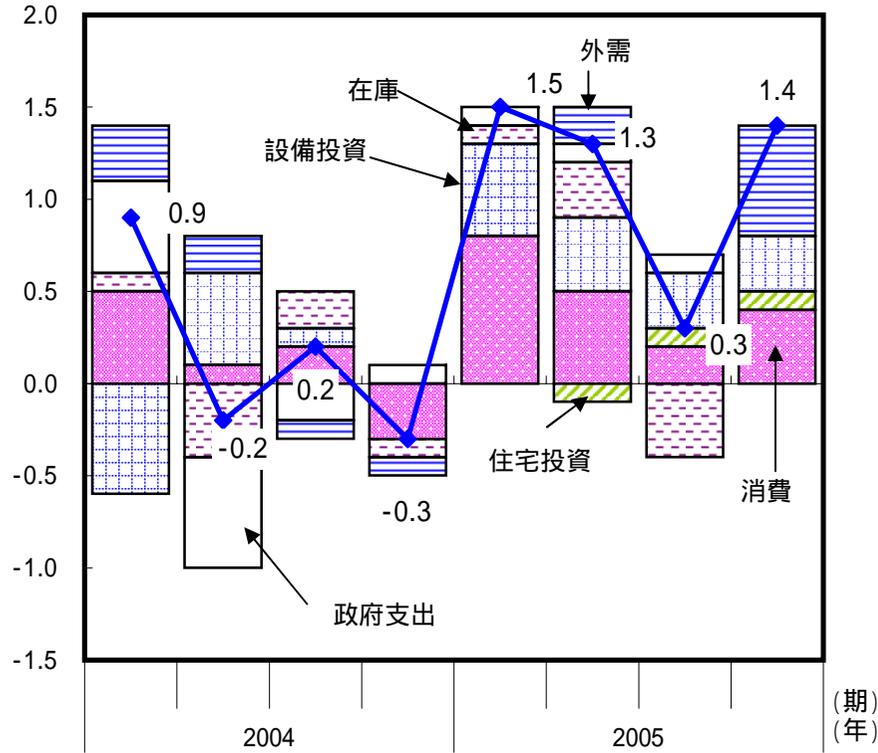
- 1 景気は、回復している。
- 2 2005年の国際収支
- 3 アメリカ経済の動向
- 4 地域経済の動向

GDPの動向

- ・実質GDPは4四半期連続のプラス成長
- ・消費、投資といった国内民間需要に支えられた成長が続く

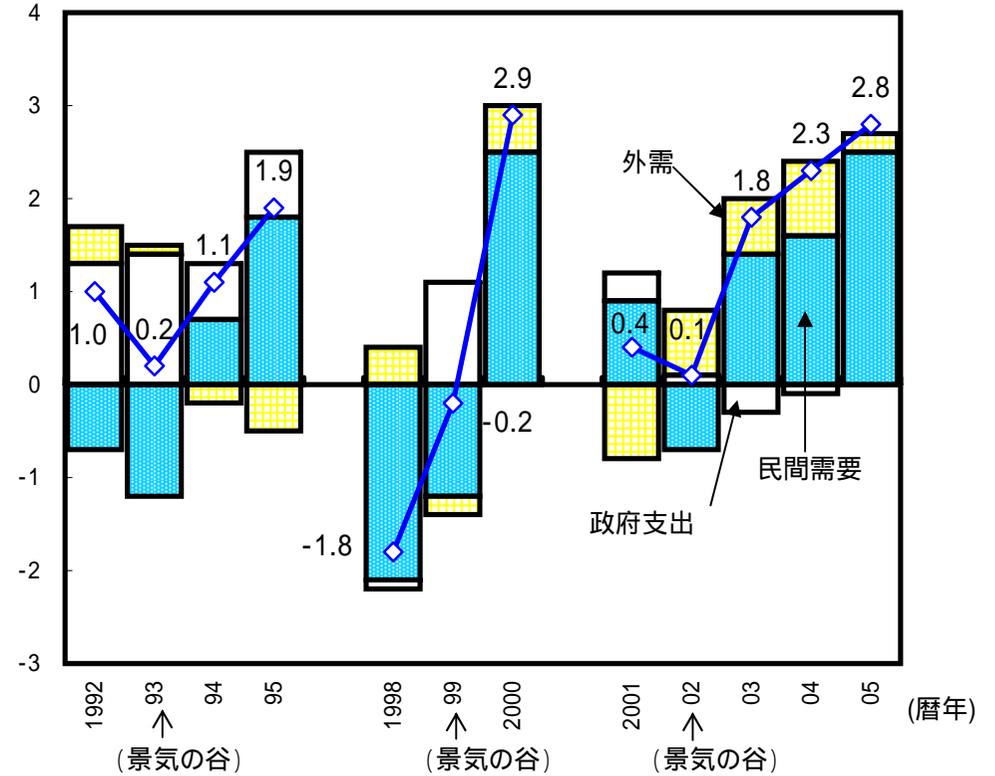
- ・2005年は2.8%成長
- ・今回の回復局面では、政府支出に頼らず、民間需要主導で成長

(前期比、前期比寄与度、%)



(備考)内閣府「国民経済計算」により作成。

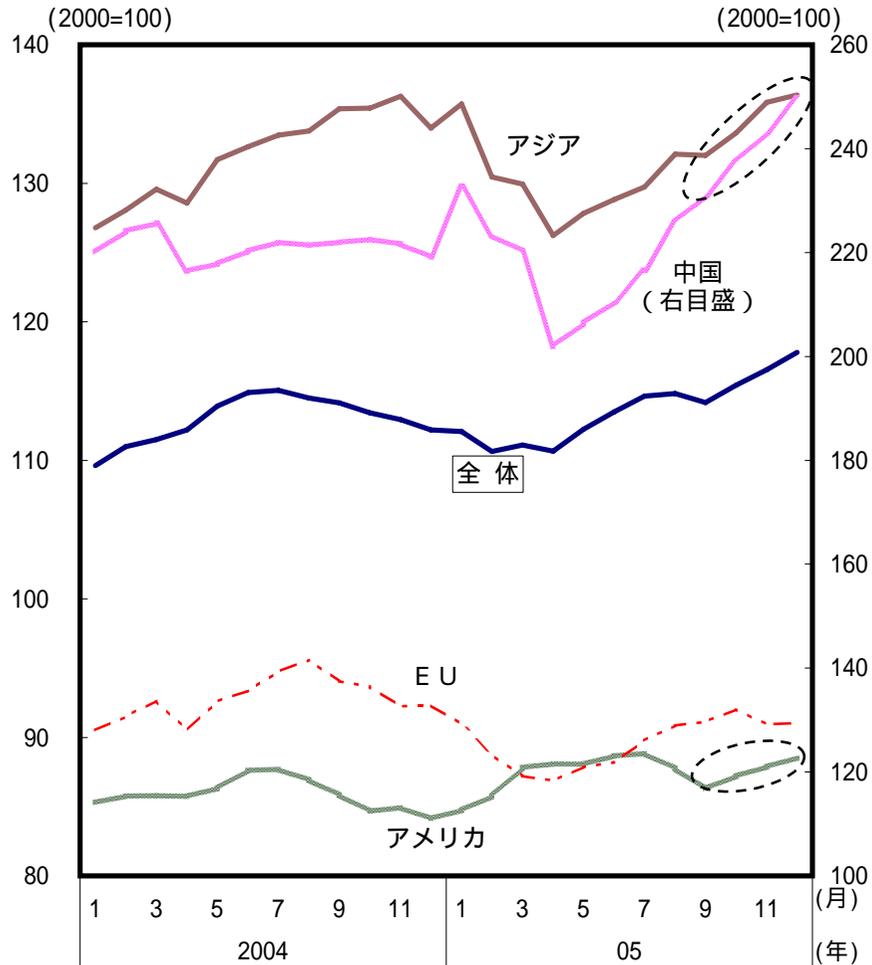
(前年比、寄与度、%)



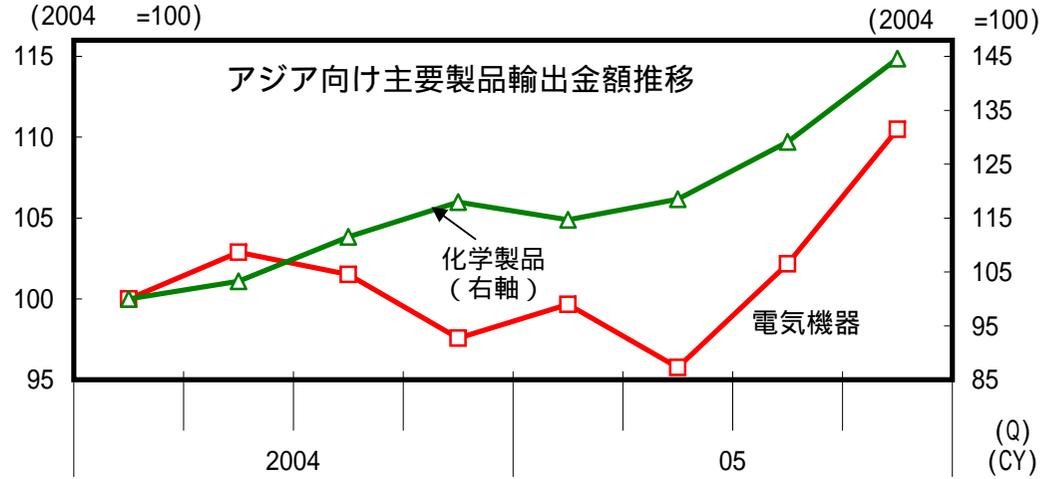
(備考) 1. 1992~95年度は、固定基準年方式の値。
2. 内閣府「国民経済計算」により作成。

輸出は緩やかに増加

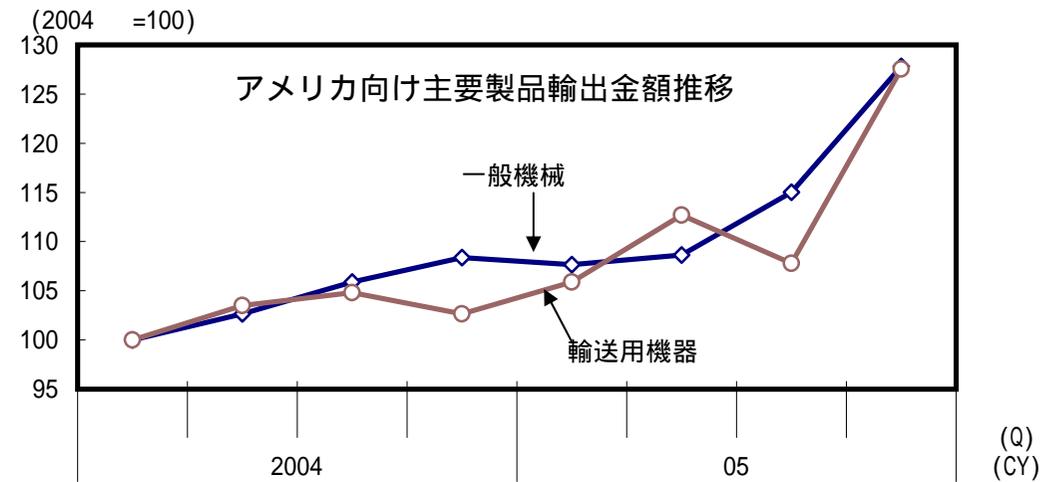
アメリカ・アジア向けが好調



アジア向けは電気機器、化学製品が増加



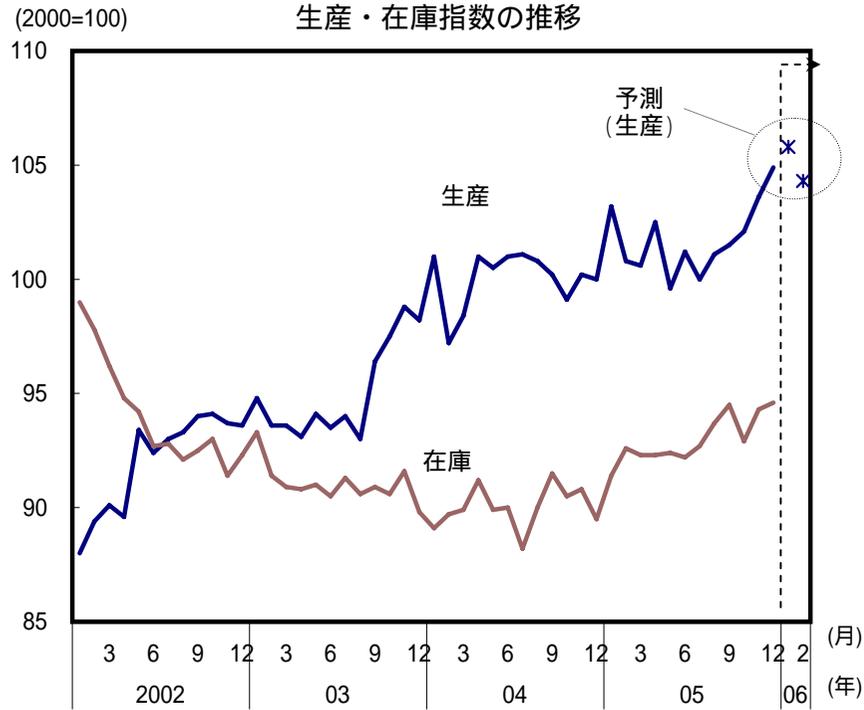
アメリカ向けは輸送機械が牽引



(備考) 1. 財務省「貿易統計」により作成。
 2. 地域別輸出は数量指数の季節調整値(後方3ヶ月移動平均)
 3. 主要製品輸出金額推移は、2004年第一四半期の輸出通関額(季節調整値)を100とした指数で表記。

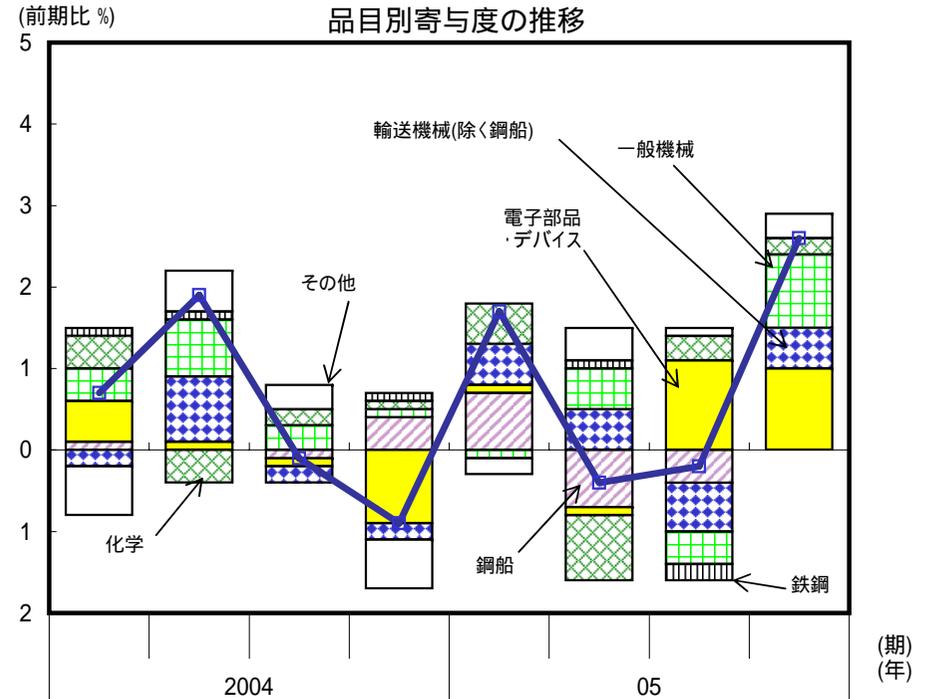
生産は、緩やかに増加

鉱工業生産は緩やかに増加



(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」により作成。季節調整値。
2. 06年1月、2月の予測は「製造工業生産予測調査」より試算。

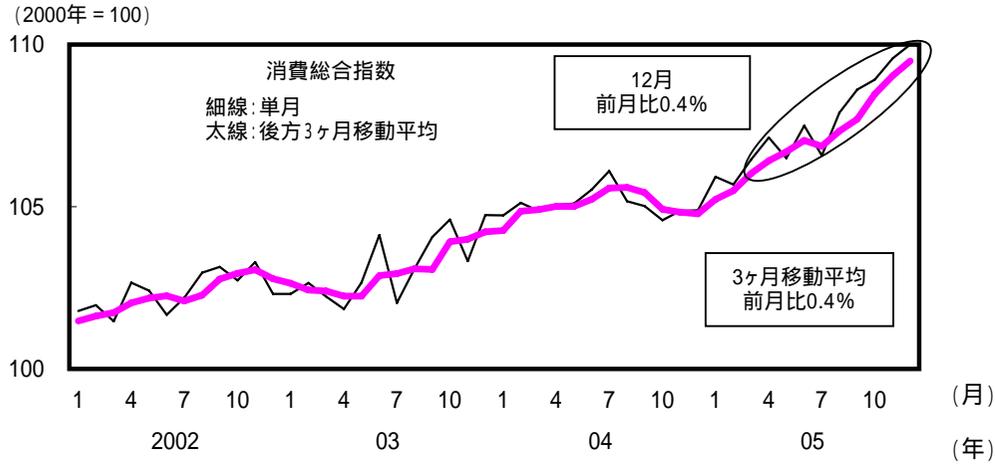
電子部品・デバイスに加え、一般機械、
輸送機械(除く鋼船)が増加に寄与



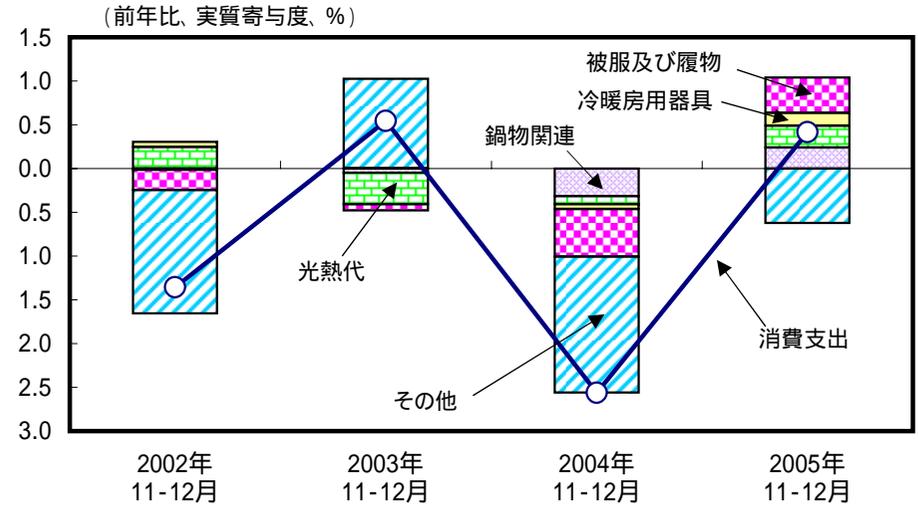
(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」により作成。
2. 四半期毎の前期比寄与度(季節調整値)。

個人消費は緩やかに増加

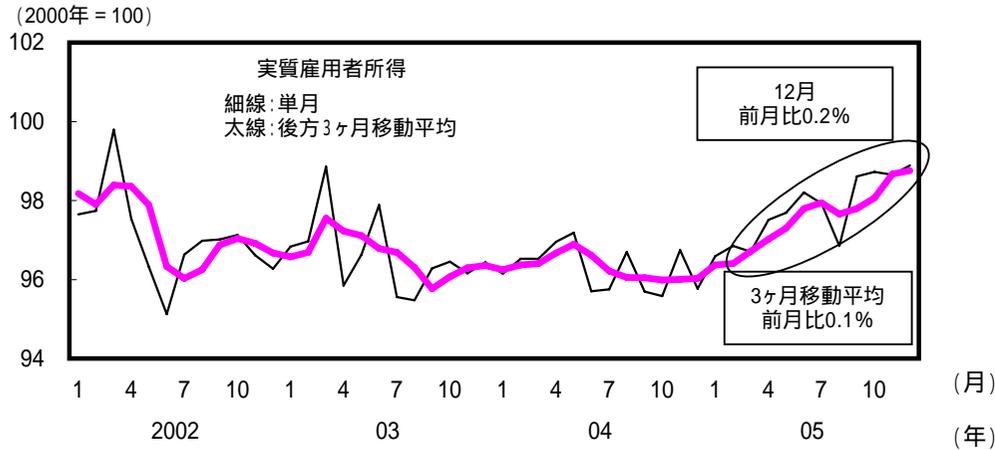
消費は緩やかに増加



天候の影響もあり冬物商品が増加



所得の改善傾向が続く



品目別の伸び率 実質前年同月比 (%)

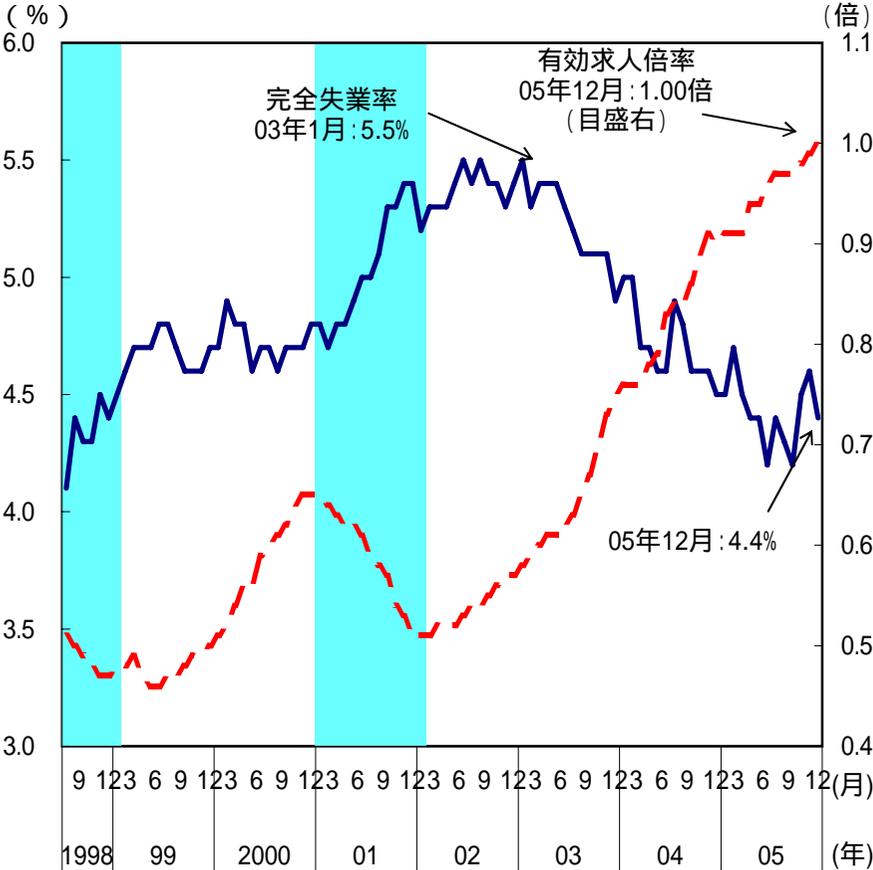
	生鮮野菜	他の光熱	冷暖房用器具	洋服	下着類
11-12月	15.3	36.2	25.4	3.8	16.7

(備考) 1. 消費総合指数は、内閣府(経済財政分析担当)で作成。季節調整値。
2. 実質雇用者所得は、現金給与総額(厚生労働省「毎月勤労統計」)と非農業雇用者数(総務省「労働力調査」)を掛けあわせた内閣府試算値。

(備考) 1. 総務省「家計調査」により作成。
2. 鍋物関連は家計調査の「生鮮野菜、生鮮肉、魚肉練製品」、光熱代は「電気代、ガス代、他の光熱」とした。
3. 一定の予算制約のもと、表記した品目にかかる消費の増減が、気温とは無関係に消費される他の品目への支出に影響を及ぼしている可能性がある点に留意が必要。

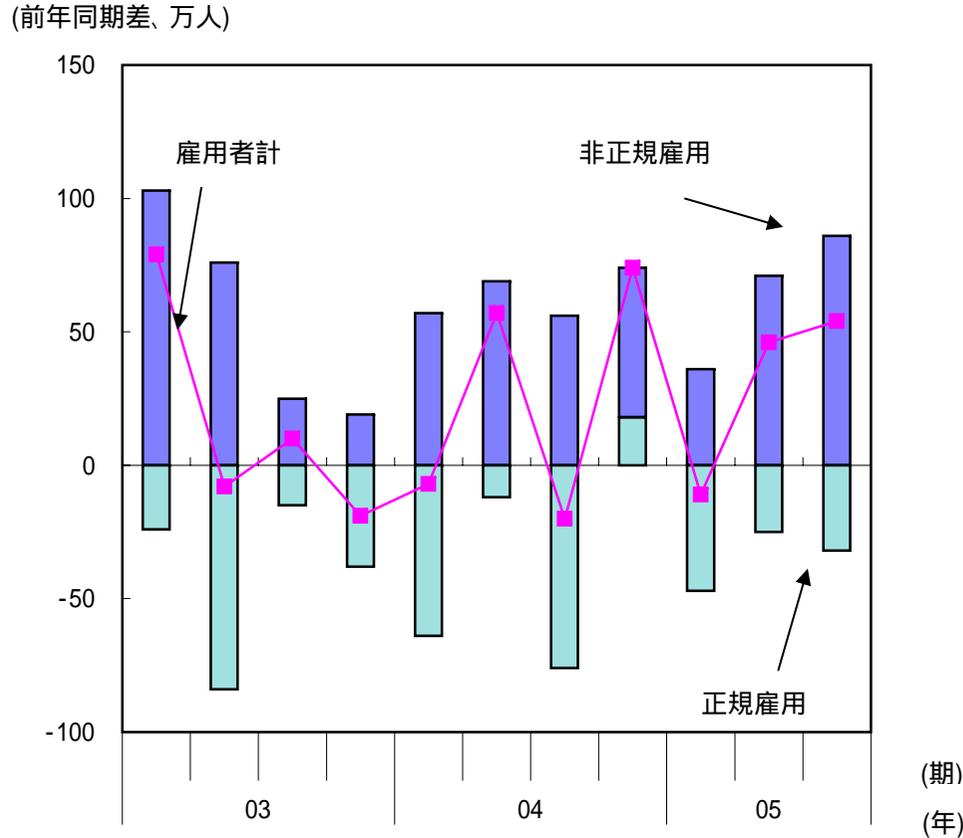
雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がり

完全失業率：4.4% 有効求人倍率：1.00倍



(備考) 1. 総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」より作成。
2. 季節調整値。シャドー部は景気後退期。

正規雇用は減少、非正規雇用は増加

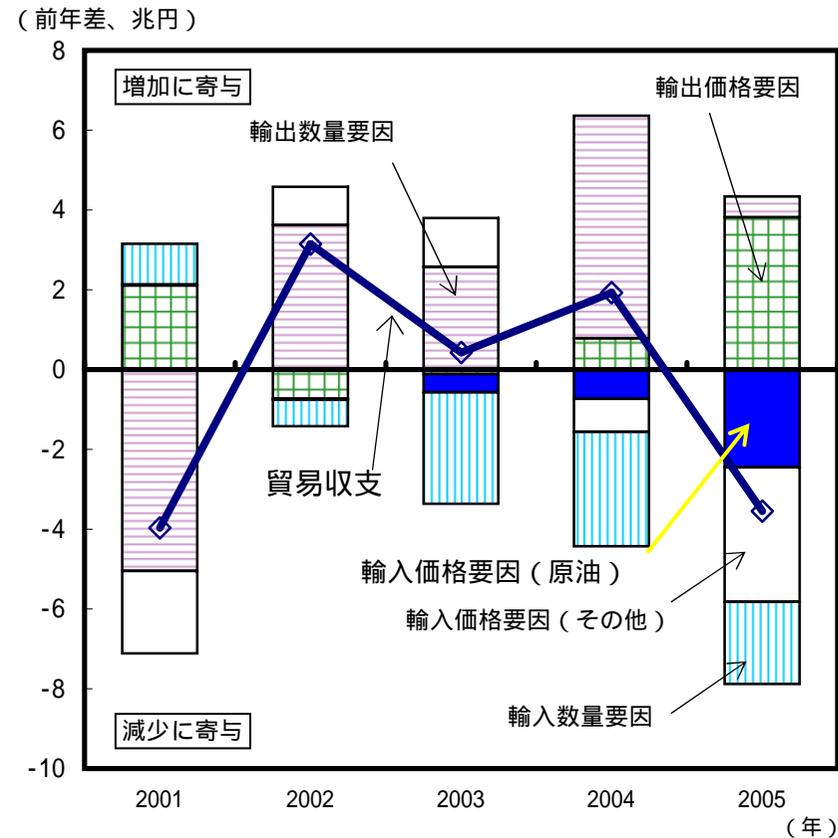
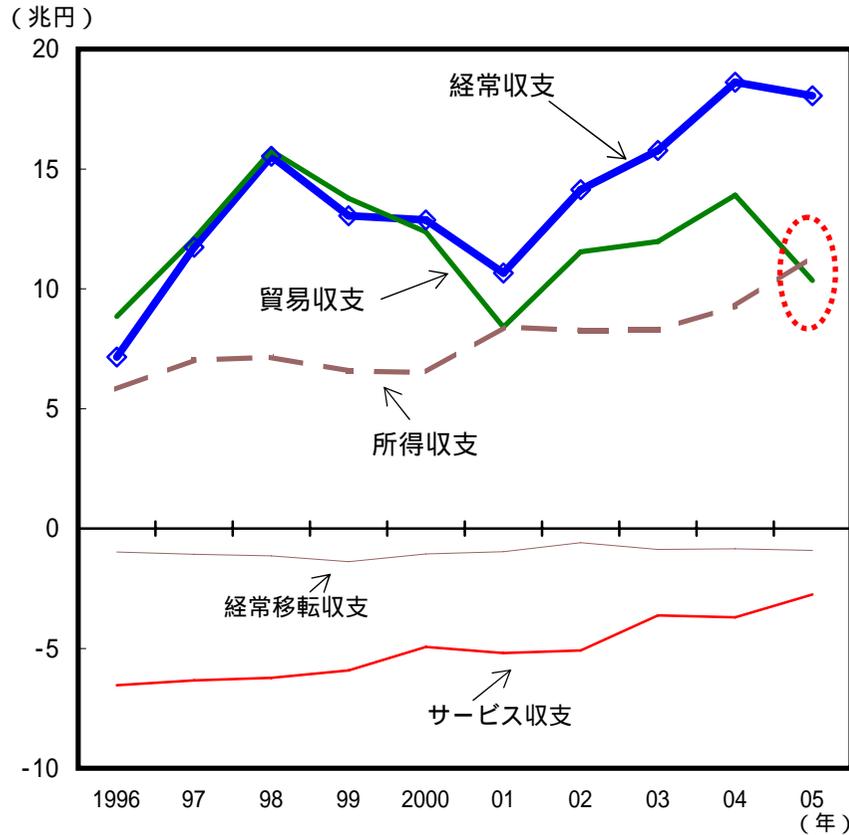


(備考) 1. 総務省「労働力調査詳細結果」により作成
2. 正規雇用：正規の職員・従業員、非正規雇用：正規の職員・従業員以外の雇用者
3. 雇用者は役員を除く

国際収支の動向

原油高等により貿易黒字が減少したこともあり、
 所得収支の黒字（対外資産から得られる収益）が、
 2005年には初めて貿易黒字を上回った。

原油等の輸入価格の上昇が貿易収支の減少に寄与

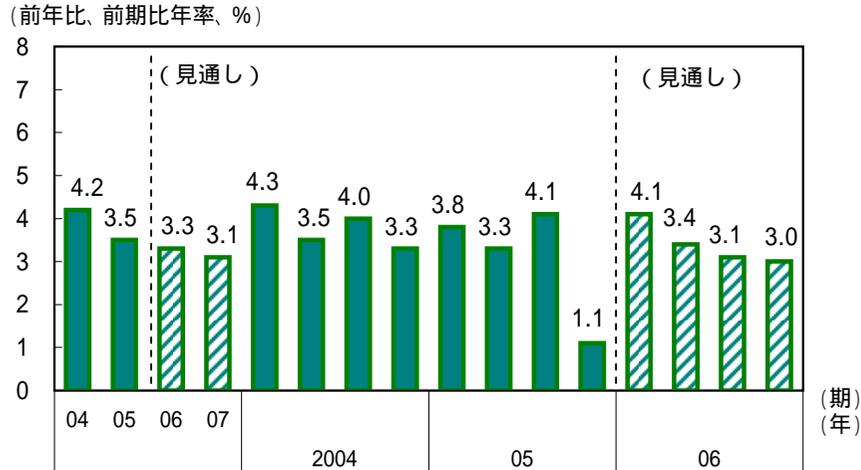


(備考) 財務省・日本銀行「国際収支統計」により作成。
 厳密には所得収支は居住者・非居住者間の貸金等のやりとりである雇用者報酬と、居住者・非居住者間における対外金融資産・負債に係る利子・配当等の投資収益の受取・支払を合計した値。

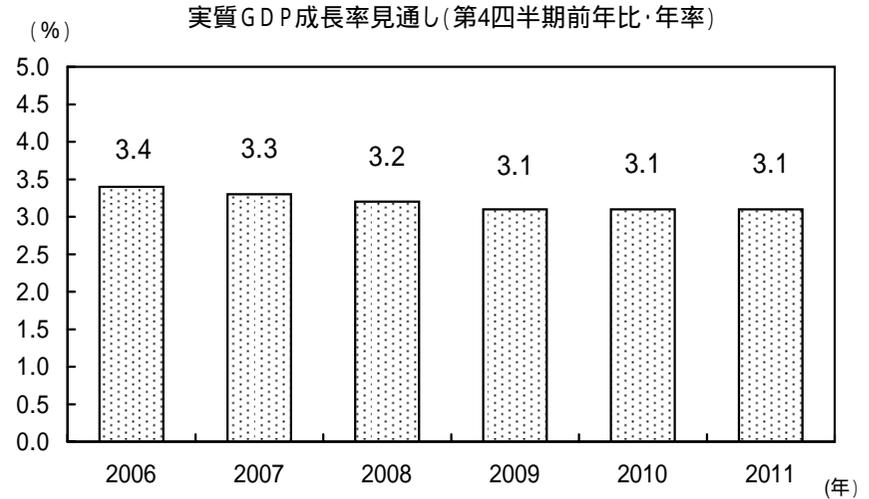
(備考) 日本銀行・財務省「国際収支統計」、財務省「貿易統計」により作成。
 要因分解については貿易統計の価格指数等を利用して国際収支ベースでの影響を推計したものの。

アメリカ経済の動向

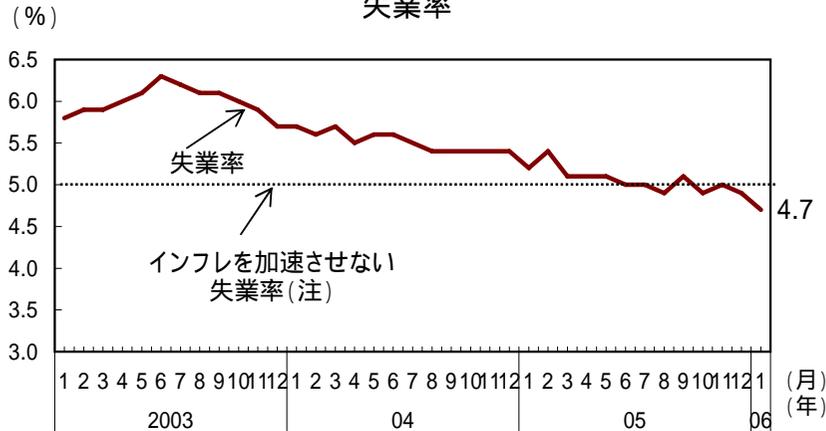
アメリカの民間エコノミストの平均的見方
2006年1-3月期以降は3~4%台の成長が続く



大統領経済報告のポイント(06年2月13日公表)



失業率



2006年の見通し

・2006年は個人消費、設備投資ともに05年の拡大ペースを維持すると見込まれ、経済全体では第4四半期前年比で3.4%の成長を見込んでいる。

・住宅価格の上昇はファンダメンタルズを反映したものであり特に異常なものではない。今後、5年間程度は住宅投資は減速する見込みであるが、急減速は避けられる見込み。

(備考) 大統領経済諮問委員会(CEA)より作成。

寒波・大雪の地域経済への影響

(全体まとめ)

消費

プラス面：防寒衣料(コートやニットなど)、鍋物商材、暖房器具などの動きが好調

マイナス面：大雪(大雪イメージ)による客足への影響(特に旅館やテーマパーク)、コート等の商材不足、暖房費(灯油代)の増加による家計への影響

生産 - 大雪による操業停止等の影響はほとんどなし(冬物商材の生産が一部で活発に)

地方財政 - 除雪費の増加

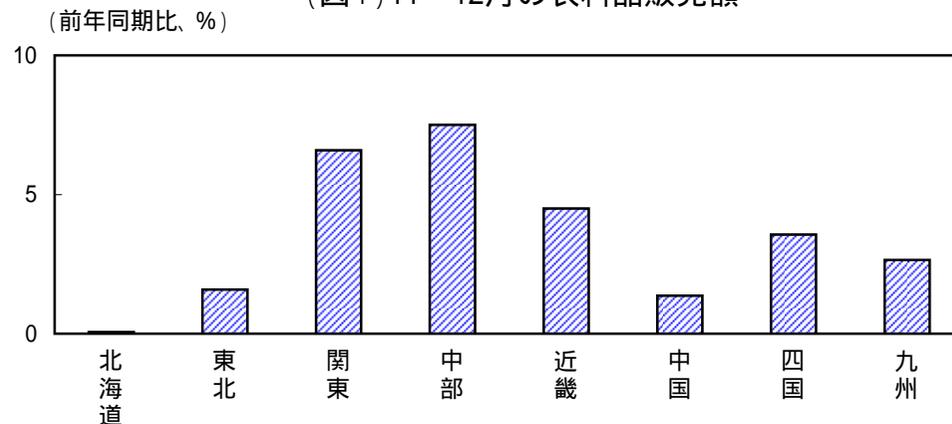
景気ウォッチャーのコメント(:良くなる、 :やや良くなる、 :変わらない、 :やや悪くなる)
(12月)

- :例年より寒く、暖房機器の動きも活発(中国 = 家電量販店)
- :防寒衣料・用品が好調に推移。鍋物商材の動きも好調(北関東 = スーパー)
- :久しぶりの大雪で、入場者数は前年比2ケタ近く減少(北陸 = テーマパーク)
- :取引先の暖房器具等が大幅に売れ、原油高のあおりで電気式暖房器具等の輸送依頼も多い(北関東 = 輸送業)
- :クリスマス前の大寒波で交通網が寸断され、受注はあるが荷物が届かない状態(近畿 = 食料品製造業)

(1月)

- :防寒物を中心に服飾、雑貨の動きが好調(東海 = 百貨店)
- :降雪による客足への影響と、寒いなか防寒物への需要はあるもののコートの生産不足による売り逃しが多い(東北 = 百貨店)
- :雪の影響で足踏みがみられ、どんな広告を打っても価格を下げても客が動かない(近畿 = 観光型旅館)
- :大雪による影響でトラックの運航効率が低下(北陸 = 輸送業)

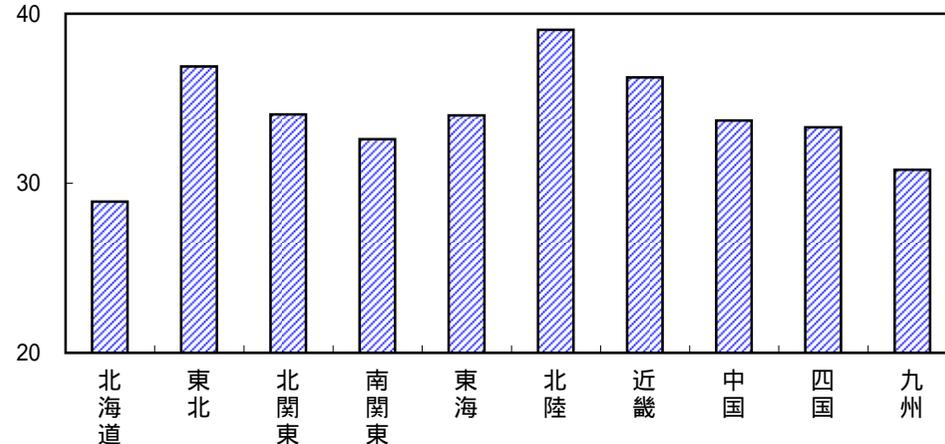
(図1) 11～12月の衣料品販売額



(図2) 各地で上昇する灯油価格

(前年同月比, %)

(05年1月 06年1月)



	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
家計に占める灯油の割合 (%)	2.96	2.20	0.51	0.57	1.30	0.42	0.83	0.73	0.74	0.37

(備考) 図1：経済産業省「商業販売統計」より作成。九州に沖縄を含む。店舗調整前。

図2：(財)石油情報センター「給油所石油製品市況調査」より作成。店頭価格。

表：総務省「家計調査」より作成。02年～05年の冬季(12～2月)中の消費支出に占める灯油支出の単純平均。